

GATBプラスコース活用事例

GATB活用に対する先生の思いと、GATBを実際に受けた高校生の感想(アンケート結果より)をご紹介します。



横浜市立横浜総合高等学校

横浜に生き、自らの生き方を創り出す生徒の育成と、心身共に健康で豊かな感性を身につけられるように、「横浜の地」に根ざした、独自の学びのシステムとして2002年4月に開校した。

学ぶ時間が午前・午後・夜間と異なる三つの時間帯に展開している単位制の総合学科高校。国語、数学、英語などの普通科目のほか、3系列(エンジニア・ビジネス・生活文化)の専門科目などを学ぶことができる。多彩な科目の中から自分の興味・関心や目的にあった科目を主体的に選択し、目標を見いだしながら学習ができる学校である。(所在地:神奈川県横浜市区大岡2-29-1)

GATBの実施状況

横浜市立横浜総合高等学校では、2022年度より毎年、「厚生労働省編一般職業適性検査 GATB(進路指導・職業指導用)」を2年生以上の希望生徒に実施し、毎年60〜100名ほどの生徒が受検している。

判定サービスは「プラスコース」を利用。結果返却時には雇用問題研究会へ講師派遣を依頼し、結果の解説会を開催、希望する生徒が参加する。2024年度は、生徒の職業や日常生活に対する興味・関心を測定できる「職業レディネス・テスト(VRT)」も併せて実施した。

キャリアガイダンス部 藤本亜子先生より

「GATB、VRTとも検査名に『職業』とあり、高校を卒業後就職する生徒が希望の職業を考えるきっかけになることはもちろん、さらに本校の科目を選択する際や、卒業後進学する生徒が、将来の職業を視野に入れた進路選択(学校選択)をするためのきっかけとしても生かしていきたいです。」

GATB結果解説会に参加した 生徒のアンケートから

2024年4月11日の結果説明会時に実施したアンケートから、生徒は主に5つの効果を感じたことがわかった。その結果(61名分)を一部紹介する。

1. 自分は何が得意なのか、また得意な能力を生かせる職業(向いている職業)を知ることができた

・職業に関することだけでなく、自分を理解するためや強みを知ることができた。よいきっかけになった。
・自分の能力を知るきっかけになったり、その能力に合った職業も知れたので、良かったです。

・自分の得意なこと、苦手なことについて、客観的な裏付けを得られた。大いに参考になった。

・自分のことを視覚的に見ることができるとはいいなと思いました。得意、不得意を知ることができただけでも次のステップに進む鍵となるので自分のためになりました。自分の将来はデザイン系にいきたいと考えているので、得意なことはどんな伸ばしていきたいです。

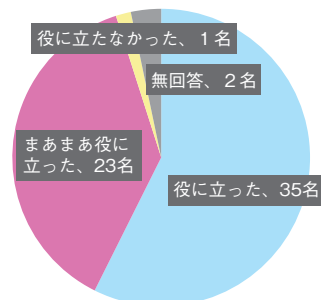
・自分が向いている職業だけでなく、自分の得意な能力、自分にある能力が分かるということを学べたから意味のある話を聞けたし、得意なことを利用できるような仕事に就きたいと改めて思った。

2. 進路を考える動機づけになった

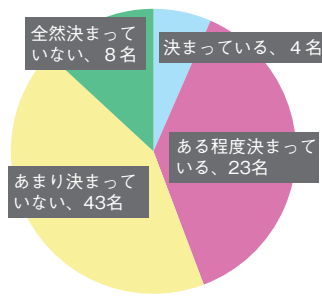
・これをもとに進路を考えようと思う。
・進路について考えることができたし、もっと調べようと思った。

GATB 結果解説会(2024年4月11日実施)に参加した生徒のアンケートから

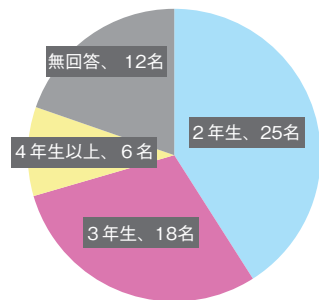
(n=61名)



「解説会」は役に立ちましたか？



卒業後の進路について



学 年

- ・進路を考えるきっかけになった。
- ・自分の進路についての考え方が変わり、将来について深く考えて決めることに役に立ちました。

3. 進路を考える手がかりが得られた

- ・自分の得意・不得意と向き合うことができ、進路先をしぼることができた。
- ・なりた職業が見つからず悩んでいたが、参加したことで将来の行きたい道が少ししぼれたと思う。

4. 仕事の世界が広がった

- ・自分の知らない仕事を知ることができた。
- ・知らなかった視野に入っていたなかったりしたが、今回で興味がある職業に出会えた。
- ・知らなかった職業を知ることができ、興味のある職業が増えた。
- ・自分が気になっている職業以外にも自分にできそうな職業を見つけることができた。
- ・自分では気付けない自分に合う職業を知れたので良かった。
- ・自分があまり興味がないものに適性があったりしたから少し調べてみようかなと思った。職種を選ぶときの視野が広がった。

5. 適性の意味がわかった

- ・適性検査とはどういうものなのか、また、どのように活用すればいいのか、専門的な解説が聞けてよかった。
- ・アイスクリーム理論(コラム参照)がとても分かりやすく、腑に落ちた。自分の能力を知ることができた。

また、元々「希望の職業」がある生徒からは以下の感想があった。

- ・自分の希望していた職業の適性があったので自信をもてた。
- ・パーソナルトレーナーとして働きたい夢があったのですが、それに必要な養士の資格や相談助言の能力があると知り、背中を押された気分です。非常に勇気付けられました。
- ・自分がなりた職業と適性が合っているかどうか知ることができた。
- ・自分が得意だと思っていたことが適性検査によって、より自信の持てるものになった。
- ・自分がやりたい調理の分野に向いているかがわかって、それを伸ばしていかうと思えたし、やりたいこと以外にも向いていることがわかってとても役に立った。
- ・希望の職業とは違う結果が出たけど、違う職業にも目を向けてみようと思った。

キャリアガイダンス部主任 新宅史生先生より

「生徒は、興味のある職業(進学先)を選択します。しかし、それは自分が知っている職業の中からの選択です。GATBは『知らなかった職業』を知るきっかけになります。希望職業に適性がないという結果になった生徒に關しても、これは自らの進路を考える一つの材料となります。これからの総合学科高校として進路を考える一つの指標として活用していきたいです。」

コラム アイスクリーム理論

GATBは、職務遂行に必要な知識・技能を身につける基盤となる能力を測定していますが、それを、アイスクリームを用いて説明します。

コーンカップを「適性能」、アイスクリームを「仕事を行う上で必要な知識・能力」とすると、GATBではコーンカップの大きさを測定しています(図A)。

